

## スーパーグローバル大学創成支援事業 令和6年度事後評価結果表

|       |                                 |
|-------|---------------------------------|
| 大 学 名 | 立命館大学                           |
| 整理番号  | B22                             |
| 構 想 名 | グローバル・アジア・コミュニティに貢献する多文化協働人材の育成 |

### ◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

|   |  |
|---|--|
| (総括評価)<br><br><b style="font-size: 2em;">S</b>  | 優れた取組状況で事業目的が十分に達成され、今後も持続的な発展が確実に期待できる。 |
| (コメント)<br>事業期間全体において、「グローバル・アジア・コミュニティに貢献する多文化協働人材の育成」のため、あらゆる分野で国際通用性、開放性、交流性を高めることを目指し、重点戦略地域を明確に定めて実施されたものとなっており、主にアジアでの確固たる地位を築いたものとして高く評価できる。<br>事業展開に当たっては、国際化に関わる統一したガバナンス体制を構築し、大学組織全体で国際通用性・多様性を獲得していくという方針が徹底されたことで、各種取組が全学に浸透し、継続性を確実にしている点が優れている。さらに教職協働のもと国際的な教育・研究活動や国際プログラムの開発を可能とする基盤を形成し、女性教職員の配置、若手研究者の育成支援、外国人教員数の増大と受入れ環境整備などの対応とも相俟って、国際化の多大な進展が認められる。自走化の観点においても、R2030 中期計画（2021～2030 年度）の策定に当たり、本構想を基盤として全ての分野の計画に国際戦略・施策を盛り込み、その実現のための予算の確保と外部資金の獲得の見通しを示している貴学の取組姿勢は素晴らしく、大規模私立大学の国際化モデルとされうるべきものだと言える。<br>多岐にわたる国際化事業の中の際立った活動として、ハイレベルな国際連携が挙げられる。アメリカン大学と国内唯一の学士課程でのジョイント・ディグリー・プログラムを始めとした複数のプログラムを設置・運営しており、それらの内容を事務局幹事校である「大学の国際化促進フォーラム」の場で横展開することで、本事業の成果普及・発信の活動を牽引していることや、オーストラリア国立大学と 100 名規模のデュアル・ディグリー・プログラムを開設し実施していることなどは、貴学のグローバル展開を特徴付けているものだろう。<br>一方で、本事業の成果指標の目標については、事業最終年度においてもいくつかの項目で未達のものが見受けられるため、それらの改善を図り、今後は、重点戦略地域だけでなくその枠を広げていき、さらなるグローバル展開を期待したい。<br>最後に、スーパーグローバル大学創成支援事業による補助期間は終了したが、引き続き徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、我が国社会の国際化の牽引に寄与されることに期待する。 |  |

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（開示用：大学限り）

<留意事項>

特になし